挑む、戦う―

鉄人たちの挑戦

―はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン大会2019（愛称ウッドマン）―

6月16日、廿日市市に熱風が駆け抜けた。

宮島から吉和まで77.5kmを縦断する「はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン大会（愛称ウッドマン）」。

スイム（2.5km）、バイク（55km）、ラン（20km）で高低差約900mを駆け上がる日本屈指の難コースに、583人の鉄人たちが挑んだ。約2,200人のボランティアが大会を支え、約7万3,000人の観客が沿道から声援を送り、選手たちの気迫が駆け抜けた1日を写真とともにたどります。

1

1・2_ 号砲一斉、宮島・西松原をスタートした選手たち。瀬戸内海を横断し、対岸の大野を目指す。大野アクアネットに上陸すると、バイクへのトランジットへ向かう。**3_** バイクに乗り換え、ボランティアから給水を受け取る。「いってらっしゃい」「頑張れ！」の声が響き、長いバイクの旅に出る選手の背中を押す。

3

2

5

6

4

4・5_ 仲間や家族と喜びのゴール。**6_** 地域の人の声援が力になる。**7_** フィニッシュのウッドワン美術館前では観客が大きな声援で選手を迎える。**8_** 個人男子年代別45～49歳の部に入賞した古志修一（こし しゅういち）さん（城内）。アップダウンが激しいもみのき森林公園付近、一歩一歩力を振り絞り進む。**9・10_** エイドステーションではボランティアが選手の名前を呼びながら水やスポンジを手渡し、エールを送る。**11_** 市民を表彰する廿日市賞に輝いた櫟良義則（くぬぎ よしのり）さん（大野東）。「地元開催でとても温かいのがこの大会の魅力。沿道からたくさん名前を呼んでいただき力になりました」と話してくれた。

7

8

9

10

11